

英語教育について

新学習指導要領では、小学校3・4年生に「外国語活動」が、小学校5・6年生に正式教科として「外国語」が加わることとなった。

1 新学習指導要領について

(1) 改訂のポイント

- ① 小3・4：新たに「外国語活動」を実施（年間35単位時間(週1コマ程度)）
- ② 小5・6：現行の「外国語活動」（年間35単位時間(週1コマ程度)）を改め、新たに「外国語科」を実施（年間70単位時間(週2コマ程度)）
- ③ 実施スケジュール：平成32年度から全面実施

(2) 移行措置について

平成32年度からの全面実施に先立って、平成30, 31年度に全ての小学校で移行措置を実施する必要がある。

(移行措置案の内容)

- 小3・4：新たに年間15単位時間「外国語活動」を実施する
- 小5・6：現行の年間35単位時間に年間15単位時間を加え、「外国語科」の内容を扱う（計50単位時間）

(3) 先行実施について

平成30、31年度に、移行措置による15単位時間に加え、各学校の判断により、一定単位時間（1～20単位時間）を先行実施として上乗せして実施することができる。先行実施で上乗せして指導する内容は、新学習指導要領の趣旨・内容等を踏まえ、各学校の判断で決めることができる。

2 国の取組

国は、各学校等で教材等を活用した研修・準備を進め、平成30年度からの移行措置・先行実施に備えることを想定している。

3月：新学習指導要領を見据えた補助教材※を全小学校に配布

※小3・4向け：デジタル教材（絵本、絵本の読み聞かせ音声収録）

小5・6向け：デジタル教材（アルファベットに関するワークシート、クイズ、チャンツ収録）

6月：①年間指導計画例案・活動例案、②1単元分指導案例、③1単元分教材・指導書（編集原稿）をHPに掲載

7月：研修ガイドブック※をHPに掲載

※研修ガイドブック：新学習指導要領に基づいた授業研究、指導実践、理論、取組事例等を収録した200ページ程度の冊子

9月：小5・6年全単元分教材・指導書をHPに掲載

12月：小3・4年全単元分教材・指導書をHPに掲載

小5・6年デジタル教材※をHPに掲載

※デジタル教材：クイズ、チャンツ、絵本の読み聞かせ音声等を収録した教室での使用教材

1月：小3・4年デジタル教材をHPに掲載

2月：教材・指導書・デジタル教材を全小学校に配布

(1) 新学習指導要領の趣旨・内容等の普及

- ① 国の教科調査官を招へいた研修（全小学校対象）（5・6月）
 - ・教科化・早期化のポイント、指導の留意点等について研修を実施。
- ② 市町の英語担当指導主事を対象にした会議を開催（7月、10月）
 - ・移行措置の内容や教材の活用方法など最新情報を共有し、疑問に直接答える機会を確保する。
 - ・各市町の進んだ取組や工夫している点を共有し、市町間のネットワークを構築する。

(2) 教員の指導力・専門性向上

- ① 各学校の中核となる教員の育成（英語教育推進研修）
（H27～H29 各校1名）
 - ・英語教育推進リーダー中央研修の内容の普及を図る研修。教室英語や、英語の絵本・英語の歌の活用、授業指導案の作成などについて学ぶ。受講者が各小学校で中核教員となり、校内研修を実施。
- ② 授業づくり研修
 - ・移行措置で扱う内容に含まれ、外国語活動や外国語科の授業に活用できる英語絵本の指導法について、読み聞かせの演習を行う。
また、県から新教材等についての最新情報を提供するとともに、その活用や、校内研修の実施について説明。
- ③ 小学校英語ブロック別研修（県内14地域）
 - ・短時間学習や小中接続など、地域課題に即した内容の研修を各地域の教育研究所等と共催により実施。
- ④ 小学校教師のための英語力アップ講座
 - ・外国語活動や英語の授業を進めるために必要な教室英語に焦点を当てた実践演習を行う。

(3) 英語の専門性を持った教員の採用等

① 英語に専門性のある教員の採用

- ・教員採用選考試験において、小学校及び中学校英語の教員普通免許状を有する者を対象に小学校英語教育推進者特別選考を実施。（募集人数：約10名）

② 現職小学校教員の中学校英語免許取得のための講習

- ・現職の小学校教員に小学校の英語教育に資する講座内容を含んだ中学校 教諭2種免許状取得のための認定講習を実施。

※免許状取得に必要な計14単位の講習を、平成29年度から3～4年間、定員30人をめどに、各年度2～6単位分を夏季休業中及び冬季休業中に開設する予定。（1単位分の単位取得に約12時間（2日間）の受講が必要。）

(4) 授業時数増に対応した教育課程の編成

- ① 本年2月に国が報告書をまとめ、授業時数増に基づく教育課程編成について、考えられる選択肢、学習活動例、留意点等を公表。
- ② 校長研修会（8月1日開催）で専門家によるカリキュラムマネジメントに関する研修を実施。
- ③ 授業時数増に対応した教育課程編成事例を収集・情報提供を行う。

(5) 移行措置への対応

7月中旬に新学習指導要領に基づいた授業研究、指導実践、理論、取組事例等を収録した「小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック」が文部科学省HPに掲載された。国は、各校がこれまでに公表されている新教材やガイドブックを活用した研修・準備を進め、平成30年度からの移行措置・先行実施に備えることを想定。

県教育委員会としては、各市町等の状況も踏まえつつ、市町等教育委員会と連携しながら、各学校等における移行措置、先行実施に向けた取組について支援を行っていく。

1 新学習指導要領について

改訂のポイント

- ① 生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする。
- ② 3学年修了までに指導すべき語が増加（現行1,200語 → 1,600～1,800語程度へ）
- ③ 実施スケジュール：平成33年度から全面実施

2 国の取組

英語による授業のモデルとなる授業や指導のポイントを収録したDVDを全中学校に配布（平成28年6～7月）

3 県の取組

(1) 新学習指導要領の趣旨・内容等の普及

- ① 公開授業等を通じた実践的な研修の実施（英語授業力向上研修）
 - ・英語で行う授業のモデルとなる授業について、公開授業を行うとともに、講師による指導助言等を通して、授業のイメージや授業改善の手法を習得する。（小学校の受講も可）

(2) 教員の指導力・専門性向上

- ① C A N – D Oリストの活用を通じた授業改善の推進
 - ・「英語を使って～できる」という学習目標（C A N – D Oリスト）を4技能（「聞く」「話す」「書く」「読む」）ごとに作成し、それをもとに授業を組み立てることで、4技能のバランスのとれた育成につなげる。
 - ・昨年度までに全ての中学校でC A N – D Oリストを作成したが、公表は5.8%、達成状況の把握は12.3%であり、活用状況に課題がある。このため、本年度は活用方法に関する研修を全学校1名参加のもと実施する。

- ② 全ての英語教員を対象に必要な指導力を身につける（英語教育推進研修）（H27～H31 全英語教員対象）
 - ・英語4技能に係る効果的な言語活動や、授業を英語で行うこと、生徒の意欲を高める指導等について、実技を行ったり実技を踏まえ教員間で協議を行ったりするなど、実践的な研修を実施。
- ③ 中学校英語地域別強化研修（県内13地域）（各校1名以上）
 - ・英語で行う授業の進め方や小学校との接続など、地域課題に即した研修を実施。
- ④ 英語教師のための英語力アップ講座
 - ・英検準1級、TOEFL (iBT) 80点、TOEIC730点以上の英語力を身に付けるための講座を実施。受講者は、効果測定試験として、「TOEIC IPテスト」を受験する。

1 市町等教育委員会への支援

(1) 市町の英語担当指導主事を対象にした会議の開催（7月19日、10月）

- ・移行措置の内容や教材の活用方法など、小学校英語の最新情報を共有し、疑問に直接答える機会を確保
- ・各市町の進んだ取組や工夫している点を共有し、市町間のネットワークを構築。

(2) 各市町のニーズに応じ、県の指導主事が市町を訪問

- ・不安や疑問を抱える市町に県の指導主事が直接訪問し、市町主催の研修会等を通じ、各市町の課題に応じた具体的なアドバイスを実施。

2 英語学習へのモチベーションや英語による発信力の向上

(1) ワン・ペーパー・コンテスト（中学生対象）

- ・三重の豊かな自然や歴史、文化について個人でワンペーパーに英語でまとめ発信（H28：県内68校から1,066作品の応募）。

(2) 英語キャンプ（小5～中3対象）

- ・オールイングリッシュの環境におけるアクティビティーを通じた英語力向上（H28：小学生38名、中学生27名参加）。

(3) 「体感！交流！発信！」みえイングリッシュデー（小5～中3対象）（新規）

- ・中学生・高校生のプレゼンテーションや、英語を使って活躍する講師の話の聞いたり、ALTと交流したりすることを通じ、英語を使う楽しさや学ぶ意欲を持つことにつなげる取組。

(4) ふるさと三重英語教材の作成（新規）

- ・ふるさとについて、英語で語る際に役立つような教材の作成・配布。

高等学校における英語教育

1 国の動き

(1) 高校生のための学びの基礎診断（仮称）

- ① 目的：義務教育段階の学習内容も含め、高校生として身に付けておくべき基礎学力の定着と、それによる学習意欲の喚起を図ること
- ② 内容：国語・数学・英語で実施し、英語についてはSpeakingを含めた4技能を測定することが検討されている。また、PBT（紙での試験実施）だけではなく、CBT（コンピューターを使つての試験実施）などもあわせて検討されている。
- ③ 実施スケジュール：平成31年度から実施

(2) 大学入学共通テスト（仮称）

- ① 目的：現在の大学入試センター試験にかわり、大学教育を受けるために必要な能力を測定するための試験
- ② 内容：英語については、「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能を評価。実施にあたっては、民間事業者が実施する資格・検定試験（認定試験）を活用
- ③ 実施スケジュール：平成32年度から実施

2 本県の現状と課題

- ・ 高校生の英語力について、全国と同様、特に「話すこと」「書くこと」について課題が大きい。
- ・ 各校において、学習到達目標をCAN-DOリストの形で設定したが、公表及び達成状況の把握が徹底できていない学校がある。

3 県の取組

(1) 留学の促進等

① 高校生の留学促進事業

短期留学（2週間以上1年未満）については、一人につき10万円の補助
長期留学（1年以上）については、一人につき30万円の補助

② 高校生海外研修旅行

海外における企業体験や異文化交流を目的に実施
(対象：県立高校生10名、行き先：シンガポール・マレーシア)

③ 海外インターンシップ

ア ものづくりコース 海外の生産現場等を体験（10名、ベトナム）
イ フードコース 海外の食文化・食産業を体験（4名、アメリカ）

(2) みえ未来人育成塾

昨年度、三重県で「伊勢志摩サミット」や「2016年ジュニア・サミット in 三重」等が開催され、県内高校生の代表が世界の舞台上で活躍する機運が高まったことを好機と捉え、これからの時代を担う高校生が、刻々と変化する社会情勢等について深く考えることを目的に開催（対象：高校生、留学生、大学生、ALT等40名 内容：テーマに基づくディスカッション、ポスターセッション等）

(3) 英語キャンプ

英語コミュニケーション能力の向上を図るとともに、学校や年齢を超えた交流によって人間的成長を促進することを目的に実施。
(対象：高校生50名)



高校生海外研修旅行



みえ未来人育成塾



英語キャンプ

参考

CEFR(セファール)について

CEFR (Common European Framework of Reference : ヨーロッパ言語共通参照枠) 。どれくらいの語学力があるのかを測る物差しとして、国際基準になっている枠組み。

熟練した 言語使用者	C2	聞いたり読んだりした、ほぼ全てのものを容易に理解することができる。いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構築できる。自然に、流暢かつ正確に自己表現ができる。	
	C1	いろいろな種類の高度な内容のかなりの長い文章を理解して、含意を把握できる。言語を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。社会生活を営むため、また学問上や職業上の目的で、言葉を柔軟かつ効果的に用いることができる。複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の、詳細な文章を作ることができる。	英検 1級相当
自立した 言語使用者	B2	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。母語話者とはお互いに緊張しないで普通にやり取りができるくらい流暢かつ自然である。幅広い話題について、明確で詳細な文章を作ることができる。	準1級 相当
	B1	仕事、学校、娯楽など普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要な点を理解できる。その言葉が話されている地域にいるときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。	2級 相当
基礎段階の 言語使用者	A2	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について、単純で直接的な情報交換に応じることができる。	準2級 相当
	A1	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることができる。自分や他人を紹介することができ、住んでいるところや、誰と知り合いであるか、持ち物などの個人的情報について、質問したり、答えたりすることができる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助けが得られるならば、簡単なやり取りをすることができる。	3～5級 相当

4技能別の英語力の状況(全国)

全国調査によると、中学3年生の4技能（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）は、バランス良く育成されているとは言えない。特に「書くこと」の無得点者が課題となっている。

高校3年生では、A1レベル（中学卒業レベル）が最も多いなど、4技能全てに課題がある。特に「話すこと」「書くこと」について課題が大きい。

中学3年生

聞くこと

CEFR	割合
A2	2.9%
A1上位	21.9%
A1下位	75.3%
0点	0.0%

話すこと

CEFR	割合
A2	0.0%
A1上位	31.2%
A1下位	68.8%
0点	3.6%

読むこと

CEFR	割合
A2	3.1%
A1上位	22.2%
A1下位	74.6%
0点	0.0%

書くこと

CEFR	割合
A2	0.1%
A1上位	50.7%
A1下位	49.2%
0点	15.6%

高校3年生

聞くこと

CEFR	割合
B2	0.2%
B1	2.1%
A2	24.2%
A1	73.6%
0点	0.0%

話すこと

CEFR	割合
B2	0.0%
B1	1.2%
A2	9.8%
A1	89.0%
0点	18.5%

読むこと

CEFR	割合
B2	0.1%
B1	2.0%
A2	29.9%
A1	68.0%
0点	0.0%

書くこと

CEFR	割合
B2	0.0%
B1	0.7%
A2	17.2%
A1	82.1%
0点	18.1%

本県の英語教育の実施状況

発話の半分以上を英語で行っている教員の割合

資料：平成28年度「英語教育実施状況調査」文部科学省

中学校	第1学年	第2学年	第3学年
三重県	48.6%	42.5%	44.9%
全国平均	64.3%	63.2%	61.9%

高等学校	普通科	専門教育を主とする学科	英語教育を主とする学科	国際関係に関する学科	総合学科
三重県	49.9%	55.9%	95.7%	100%	28.3%
全国平均	45.1%	44.6%	80.5%	83.0%	39.5%

「CAN-DOリスト形式」の学習到達目標の設定状況

中学校	学習到達目標を設定している学校の割合	設定した学習到達目標を公表している学校の割合	学習到達目標の達成状況を把握している学校の割合
三重県	100.0%	5.8%	12.3%
全国平均	75.2%	12.0%	34.2%

高等学校	学習到達目標を設定している学校の割合	設定した学習到達目標を公表している学校の割合	学習到達目標の達成状況を把握している学校の割合
三重県	100.0%	68.2%	40.0%
全国平均	88.1%	28.4%	41.6%

生徒の英語力の状況

中学校	英検を受験したことがある生徒数の割合	英検3級以上を取得している生徒の割合(a)	英検3級以上相当の英語力を有すると思われる生徒数の割合(b)	a+b
三重県	25.4%	13.4%	20.0%	33.5%
全国平均	37.1%	18.1%	18.0%	36.1%

高等学校	英検を受験したことがある生徒数の割合	英検準2級以上を取得している生徒の割合(a)	英検準2級以上相当の英語力を有すると思われる生徒数の割合(b)	a+b
三重県	23.1%	8.9%	25.9%	34.8%
全国平均	34.1%	13.0%	23.5%	36.4%

英語担当教員の英語力の状況

中学校	英検、TOEFL、TOEICを受験した経験のある英語担当教員(a)	(a)のうち英検準1級以上(※)を取得している教員の割合(b)	(b)以外の資格検定試験により英検準1級相当以上(CEFR B2レベル以上)を取得している教員の割合(c)	b+c
三重県	65.1%	31.5%	0.6%	32.1%
全国平均	73.1%	30.5%	1.3%	31.8%

※ 英検準1級、TOEFL PBT550点以上、CBT213点以上、iBT80点以上、TOEIC730点以上

高等学校	英検、TOEFL、TOEICを受験した経験のある英語担当教員(a)	(a)のうち英検準1級以上(※)を取得している教員の割合(b)	(b)以外の資格検定試験により英検準1級相当以上(CEFR B2レベル以上)を取得している教員の割合(c)	b+c
三重県	79.0%	63.5%	0.6%	64.0%
全国平均	79.1%	61.0%	1.2%	62.2%

CAN-DOリストの例

三重県立宇治山田商業高等学校【国際科】 CAN-DO リスト

学年別目標	聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと	数値指標 (外部検定試験)
卒業時目標	・興味関心のある分野であれば、英語で行われる授業や研修を理解することができる。	・その場の状況に応じて、まとまりのある話をするができる。	・興味関心のある社会的な出来事に関する記事を英字新聞で理解することができる。 ・英文の種類や読む目的に応じて、適切に読みこなすことができる。	・興味関心のある分野について、説明する文章を書くことができる。	英検2級以上 TOEIC550
	・リスニングテスト ・インタビューテスト	・スピーキングテスト ・スピーチ ・プレゼン発表 ・ディベート	・定期考査	・エッセイライティング ・定期考査	
3年後期	・簡単な内容であれば、英語で行われる授業や研修を理解することができる。	・調べたことについて、まとまりのある話をするができる。(課題の発表など)	・比較的易しい英語で書かれた英字新聞で社会的な出来事に関する記事を理解することができる。	・興味・関心のあることについて、聞いたり読んだりした内容の要約を書くことができる。	全商英検1級 TOEIC500
	・リスニングテスト ・インタビューテスト	・スピーキングテスト ・スピーチ ・プレゼン発表 ・ディベート	・定期考査	・エッセイライティング ・定期考査	
3年前期	・公共の場でのアナウンスを聞いて、重要なポイントを理解することができる。	・日常生活の身近な話をするができる。 ・印象に残った出来事について話すことができる。	・一般向けに書かれた説明的な文章を理解することができる。 ・ある程度まとまった量の英文の要点を理解することができる。	・日常生活の身近な話題について、自分の考えを書くことができる。	TOEIC400
	・リスニングテスト ・インタビューテスト	・スピーキングテスト ・スピーチ ・プレゼン発表	・定期考査	・エッセイライティング ・定期考査	
2年後期	・日常生活の身近な話題に関する簡単な話を聞いて、その内容を理解することができる。	・自分の将来の夢や希望について話すことができる。	・実用的な文章を理解することができる。 ・簡単な内容であれば、まとまった量の英文の要点を理解することができる。	・印象に残った出来事について、その内容を伝える文章を書くことができる。	英検準2級 TOEIC350
	・リスニングテスト ・インタビューテスト	・スピーキングテスト ・スピーチ ・プレゼン発表	・定期考査	・エッセイライティング ・定期考査	
2年前期	・興味関心のある話題に関する話を理解することができる。	・自分の気持ちを表現することができる。 ・ファーストフード、レストラン、ショッピング等において注文するなど、自分の意思を伝えることができる。	・簡単な説明文を理解することができる。 ・一般的なお知らせや注意事項を理解することができる。	・自分の将来の夢や希望について、書くことができる。 ・短い手紙(Eメール)等を書くことができる。	
	・リスニングテスト ・インタビューテスト	・スピーキングテスト ・スピーチ ・プレゼン発表	・定期考査	・エッセイライティング ・定期考査	
1年後期	・ゆっくり、または繰り返し話されれば、日常生活の身近な話題に関する簡単な話を聞いてその内容を理解することができる。	・パーソナルなことについて(趣味や物事の好き嫌い等)について述べるができる。	・日常生活の身近な話題についての文章を理解することができる。	・パーソナルなことについて(自分の趣味や、好き嫌いとその理由など)書くことができる。	TOEIC Bridge 130
	・リスニングテスト ・インタビューテスト	・スピーキングテスト ・スピーチ	・定期考査	・エッセイライティング ・定期考査	
1年前期	・ゆっくり、または繰り返し話されれば、興味関心のある話題に関する話を理解することができる。	・自分の好きなことについて、短い話をすることができる。	・興味関心のある話題に関する簡単な文章を理解することができる。	・簡単な自己紹介の文章を書くことができる。	英検3級
	・リスニングテスト ・インタビューテスト	・スピーキングテスト ・スピーチ	・定期考査	・エッセイライティング ・定期考査	